



愛郷無限

2014年03月15日号 NO.462

写真提供:大田市

土屋館
どやだて
通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

Subject：ぜひ見て！ ドキュメンタリー【波のむこう】

我が師匠より、3月2日発行の【朝日新聞GLOBE（世界視点のニュース新聞）】と、NHK／BSが制作したドキュメンタリー番組のDVDが送られてきました。

紙面には【Breakthrough（突破する力）】と紹介された映画監督の三宅響子さんインタビュー。そしてDVDは彼女がディレクションして、NHKと英国BBC、米国PBSなど日米欧5カ国のメジャー放送局が共同制作したドキュメンタリー作品【波のむこう】。

日本では2012年の春にNHK／BSで放映されていたそうですが、震災3年を控えた先日3月8日にもNHK／BS【世界のドキュメンタリー】で前後編に分けて再放映されたそうです。勉強不足、チェック不足でこれまで存在さえ知りませんでした。

<http://globe.asahi.com/breakthrough/2014022700002.html>

東大からオックスフォード大に進み、そのまま英国を拠点としてドキュメンタリー映画制作のディレクションをしている彼女。311の報をロンドンで知り、幼い頃によく遊びに行き親しんだ親戚の邦子お婆さんが住む福島県浪江町が、大震災と原発事故によってどうなってしまうのか、いてもたってもいれられなくなり、福島に入って取材をしたそうです。邦子お婆さん一家をはじめとした親戚たちや浪江町の人びとの震災後の思いと生活を丹念に拾った、とても考えさせられるドキュメンタリー作品でした。

原発事故によってふるさとから強制避難をさせられながら、東京電力のことを未だに【東電さん】と“さん”付けて話す地元の人達。都会の繁栄を支えるための電力という礎を供給すべく、絶対に安全だからと徹底的に国家のお墨付きで刷り込まれた事情。地域が、住民が、リスクの対価としての恩恵を存分に受けてきた歴史。そして事故後になって初めて分かったとんでもなく取り返しの付かないリスクの大きさ。とても複雑な感情。そして歴史。派手な演出は全くなし、訥々と浪江の方々の姿と心情をつむぎながら、原発と日本、そして立地する田舎の特殊な関係を紐解いていきます。東北人特有の【感情を出来るだけ押し殺そうとする姿】から、その複雑さ、問題の深さが滲むようにじんわりと、そして海よりも深く伝わってきました。

娯楽映画では世界の映画祭で様々な受賞歴を持つ日本の映画ですが、ドキュメンタリーの世界にもこのように世界的な評価を受けている方がいることを初めて知りました。絶対に見て欲しい作品です。私は娘達と一緒に見ましたが、子ども達も素直に共感し、そして言葉では明確に説明できない人間の業を感じ取ったようでした。

見たい方にはDVDをお貸ししますので小生までご連絡ください。